

意見陳述

2007年3月28日

中北 龍太郎（弁護士）

一 本案に関する法目的論的考察の視点

- 1 本法案の目的は何か
- 2 本法案の自民党新憲法草案と本法案の経過

二 コスタリカ非武装憲法の歩みとわが国の改憲論議

三 憲法改正国民投票の意義とあるべき姿

- 1 憲法制定権力の行使としての憲法改正国民投票
- 2 憲法改正国民投票手続において求められる本来的在り方

四 本法案における国民投票の重大な疑点

- 1 少数の賛成で憲法改正が承認される危険性
- 2 国民の自由・公正な討議が保証されていない問題点
- 3 実質的争点が曖昧にされたまま投票に付せられる欠陥
- 4 主権者としての国民の関与・イニシアティブの軽視
- 5 その他